

## 財団法人 いばらき文化振興財団

[法人の概要]

平成19年7月1日現在

代表者名	理事長 橋本 昌(非常勤)	県所管部課	生活環境部 生活文化課	
所在地	水戸市千波町後川745	電話番号	029-305-0161	
ホームページURL	<a href="http://www.icf4717.or.jp">http://www.icf4717.or.jp</a>	E-mailアドレス	<a href="mailto:icf-ps3@icf4717.or.jp">icf-ps3@icf4717.or.jp</a>	
資本金(基本財産)	30,000 千円	設立年月日	平成4年7月17日	
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額	出資比率
	1	茨城県	30,000 千円	100.0 %
	2		千円	%
	3		千円	%
	4		千円	%
	5		千円	%
	その他	団体	千円	%
設立目的	<p>各種の文化振興事業を行うことにより個性豊かな県民文化の振興を図り、もって国際性豊かな文化の県づくりに寄与することを目的として平成4年に設立された。</p> <p>平成11年からは、茨城県文化福祉事業団の文化部門を統合し、芸術文化に接する機会の提供、県民文化センターの管理運営及びアクアワールド茨城県大洗水族館(以下「大洗水族館」)の運営を行っている。</p>			

[事業の概要]

事業名	平成19年度事業費	内容
事業1 文化振興事業	415,193 千円	個性豊かな県民文化の振興を図るため、芸術・文化活動への助成及び芸術・文化に接する機会の提供を行うため幅広いジャンルの公演事業を実施する。
事業2 県民文化センター事業	487,573 千円	県の芸術文化振興の拠点施設である県民文化センターの運営、施設の維持管理及び使用料徴収事務を行うとともに、食事等の提供、駐車場の管理を行い、利用者への利便とサービスを図る。
事業3 大洗水族館事業	1,937,849 千円	「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」を基本テーマに、観光レクリエーション施設、地域の文化と経済に貢献する施設、海を通じた環境教育現場としての生涯学習施設、自然保護と種の保存に関する実践・研究施設として、「展示」、「普及」、「研究」の3つの機能を相互に連動させた魅力ある海の総合ミュージアム施設として運営する。

[組織]

7月1日現在の人数	年度	平成17年			平成18年			平成19年		
		県派遣	県OB		県派遣	県OB		県派遣	県OB	
役員	常勤理事	2	0	2	2	0	2	2	0	2
	非常勤理事	13	0	1	13	0	1	13	0	1
	常勤監事	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常勤監事	2	0	1	2	0	1	2	0	1
	計	17	0	4	17	0	4	17	0	4
職員	管理職	15	1	0	15	1	0	16	1	0
	一般職	68	2	0	63	2	0	64	2	0
	臨時職員	75	0	0	79	0	0	77	0	0
	嘱託職員	3	0	1	3	0	1	6	0	1
	計	161	3	1	160	3	1	163	3	1
当期常勤職員の年齢構成	20代以下	30代	40代	50代以上	合計	平均年齢	平均勤続年数			
	17	20	16	27	80	42歳6月	18年7月			

[収支の状況]

財団法人 いばらき文化振興財団

(単位:千円)

区 分		平成16年度	平成17年度	平成18年度
収 支 の 状 況	収入合計	2,727,141	2,613,068	2,846,588
	事業収入	2,478,832	2,375,970	2,598,012
	事業外収入	248,309	237,098	248,576
	支出合計	2,491,949	2,538,341	3,432,742
	事業支出	768,730	757,480	848,024
	事業外支出	1,723,219	1,780,861	2,584,718
	うち管理費	1,705,266	1,757,477	1,660,673
	うち人件費	717,619	691,170	665,981
	当期収支差額	235,192	74,727	△ 586,154
	正味財産増加額	588,382	590,787	1,520,260
	正味財産減少額	567,909	568,689	658,135
当期正味財産増減額	255,665	96,825	275,971	
前期繰越正味財産	1,791,641	2,047,306	2,144,131	
期末正味財産	2,047,306	2,144,131	2,420,102	
財 産 の 状 況	資産	2,842,096	2,884,911	3,306,474
	流動資産	992,032	1,025,343	577,469
	固定資産	1,850,064	1,859,568	2,729,005
	負債	794,790	740,780	886,372
	流動負債	300,044	243,790	377,890
	うち短期借入金	0	0	0
	固定負債	494,746	496,990	508,482
	うち長期借入金	0	0	0
正味財産	2,047,306	2,144,131	2,420,102	

[財的関与の状況]

(単位:千円)

区 分		平成16年度	平成17年度	平成18年度
財 的 関 与 状 況	補助金	101,595	103,139	97,352
	委託金	394,586	384,269	377,037
	貸付金			
	計	496,181	487,408	474,389
	財政的関与の割合(%)	18%	19%	17%
	損失補償・債務保証			

[平成18年度の補助金等の目的・内容等]

支 出 項 目	目 的 ・ 内 容 ・ 効 果
補助金	いばらき文化振興財団事務局では、理事会・評議員会の開催をはじめ、財団の事業計画及び収支予算の策定や事業所(県民文化センター、大洗水族館)の業務の進行管理及び事業推進の指導にあたるほか、芸術文化活動への助成及び質の高い舞台公演の開催など県民サービスに努めた。
委託金	県民文化センターの運営及び施設の維持管理、使用料徴収事務を行い県民サービスの向上に努めた。 また、大洗水族館では茨城県自然博物館水系展示水槽管理業務を受託し、「サイエンスデー・海の日」に館内レクチャーを行ったほか、魚拓展への参画、新規試みとしてサケ親魚の展示を行い博物館との連携に努めた。
貸付金	

[評点集計]

評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
計画性	4	8	8	100.0%
目的適合性	5	13	14	92.9%
組織運営の適正性	4	8	8	100.0%
健全性	11	22	40	55.0%
効率性	10	4	36	11.1%
合計	34	55	106	51.9%

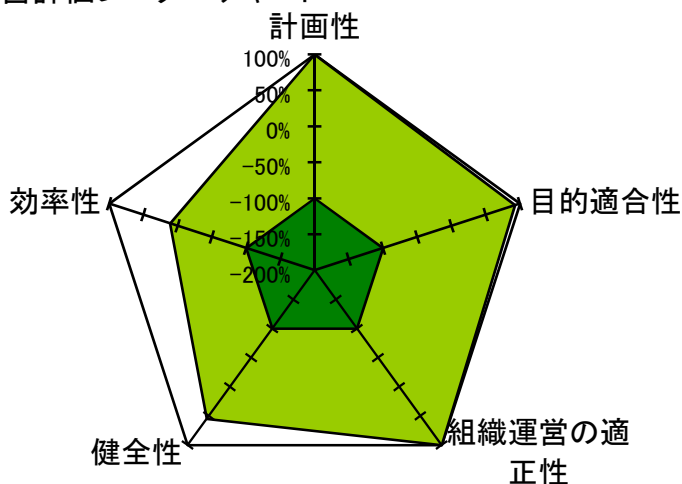
公益法人会計用

財団法人 いばらき文化振興財団

警戒指標

--

経営評価レーダーチャート



《評価の視点》

計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
組織運営の適正性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか

各評価項目については、「出資法人等経営評価指標及び評価基準等」を参照

[法人の自己評価(経営概況、経営上の課題・対策等)]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
<p>中期経営計画(14~18年度)を策定し、事業別に目標を掲げ運営にあたり、概ね計画どおりに推移した。</p> <p>なお、新たに第2期中期経営計画(19~23年度)のを策定し運営にあたり、</p>	<p>個性豊かな県民文化の振興を図り国際性豊かな文化の県づくりに寄与するため文化振興事業、県民文化センター、大洗水族館の運営等を行っている。</p> <p>施設及び事業の入場者による事業効果・目標達成度の状況から目的に適合している。</p>	<p>職員の年齢構成については、20歳代から50歳代までほぼ平均化している。</p> <p>職員の動機付け体制については中期経営計画推進委員会をはじめとする内部の委員会をとおして、職員の意見を取り入れる体制をとっている。</p> <p>また、事業内容及び予算・決算の状況など、各事業の広報とともにホームページ上で情報公開を行い透明性の確保に努めている。</p>	<p>当期正味財産増加額は、5期連続黒字であり、健全性で当面の課題はないが、水族館の将来の施設整備費について多額の費用を要することが予測されるため、更なる入場者確保と財源確保が必要である。</p>	<p>事業収入が前年度対比で9%増加、当期正味財産増加額についても前年度比185%増により、「人件費比率」「職員一人当たりの事業収入」等、効率性の評点が好転した(前年度△10→今年度4)。大洗水族館の入場者増により財団全体の評点を引き上げる結果となった。</p> <p>財団の経営状況は、財団予算全体の7割を占める水族館の運営状況に大きく左右されることから、今後、継続して安定した入場者を維持するため広報宣伝の確保に努めるとともに職員等の適正配置を行い効率的な運営に努める。</p>

今後の事業展開の方向	<p>財団の平成19年度予算規模は、文化振興事業334,565千円、文化センター事業487,573千円、水族館事業1,937,849千円、合計2,759,987千円となっている。水族館事業の予算規模は財団全体の70%を占めるため、水族館の運営が財団全体の経営を左右することから水族館の入場者をいかに確保していくかが課題となる。</p> <p>このため、マスメディアや観光情報誌等を活用した広報宣伝を行うとともに、引き続き首都圏の人口密集地の潜在客の発掘や年間パスポートの販売等によりリピーターを確保するための対策を積極的に推進するなど、長期的、安定的な経営を目指すものとする。</p> <p>また、芸術文化に接する機会の提供という観点から実施する公演事業や利用者の利便を図るため実施する県民文化センター自主事業については、収支均衡を保つよう運営を行うほか、指定管理者として指定を受けた県民文化センターの管理運営については、利用者の要望を踏まえ一層のサービス向上に努める。</p>
------------	---

〔法人を担当する課の意見〕

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
<p>中期経営計画に基づき、各事業について積極的に取り組んだ結果、概ね計画通りに達成したところである。</p> <p>今後は、平成19年度を初年度とする、第2期中期経営計画に基づき、より一層県民の要望を反映しつつ、県の文化・芸術の振興を図っていく必要がある。</p>	<p>県民文化センターや水族館の管理など、民間等において代替可能な類似事業はあるが、現在、財団で実施している事業は、当初の設立目的どおり、個性豊かな県民文化の振興に資するものと考ええる。</p>	<p>適切であるが、特に水族館については、平成19年度から施設の維持修繕を担当する施設課を設置したところであり、今後、計画的な維持修繕を行い、施設設備の延命と維持修繕経費の削減に主体的に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>当期正味財産増加額が5期連続黒字であることや、将来の施設修繕に計画的に対応するための施設設備修繕等積立金を計上するなど、事業運営の健全化に取り組んでいる。</p>	<p>評点が上がった要因としては、水族館の入館者が前年に比べて増加したことによるものであり、財団の運営努力によるものと考ええる。</p>
法人担当課の意見	<p>①これまでの経営評価結果に対する取組状況</p> <p>水族館については、施設の修繕費及び展示のリニューアル経費等に関する県と財団の役割分担及び経費負担について、平成19年1月31日付けで協定書を締結したほか、展示の充実やイベントの実施などによる誘客に努めた結果、入館者数は、2期連続で前年度を上回るなど、積極的かつ効果的な事業運営を行っていることは評価できるものと考ええる。</p> <p>また、県民文化センターについては、平成18年4月1日から指定管理者となり、利用者へのサービスの向上を図るため、会場受付やチケット販売窓口の営業時間の延長や、ホームページ等によるアンケート調査により利用者ニーズの把握に努めるなど、本県の文化芸術活動の拠点施設として、重要な役割を果たしているものと考ええる。</p> <p>②平成19年度経営評価について</p> <p>水族館の入館者数の増加により、効率性について改善された結果、5つの評価の視点の評点合計は前年度を上回り、全体として健全な事業運営が行なわれているものと考ええる。</p> <p>今後とも、平成19年度を初年度とする第2期中期経営計画に基づき、利用者へのサービスの向上や、魅力ある文化振興事業の振興に努め、個性豊かな地域文化の創造が図られるよう指導していく。</p>			

[総合評価]

<p>取組みを強化すべき視点</p>	<p> </p>
<p>総合的所見等</p>	<p> </p> <p>大洗水族館のオープン効果が薄れる中、入場者数を平成17年度比約12%も大幅に増加させたことについては、催事内容の魅力向上や積極的な誘客促進活動など、当法人の運営努力の成果として評価できる。</p> <p>引き続き、指定管理を受けている県民文化センターとともに、利用者ニーズの把握などサービスの向上に努めながら、更なる利用者の確保を図るとともに、管理コストの削減に取り組まれない。</p> <p>なお、平成18年度、県との間で費用負担等の取り決めを行った水族館の施設設備の修繕・更新にあたっては、当法人に今後多額の経費負担が伴うことから、きめ細やかな維持管理等により修繕・更新費用を抑制するとともに、当該経費に充てる積立金の計画的な確保に努めていく必要がある。</p>

<p>総合的所見等に係る対応</p>	<p>大洗水族館については、平成19年度も目標としている100万人の入場者数を1月に達成したところであり、引き続き魅力ある企画展の開催や効果的なPRに努めるよう指導していく。</p> <p>県民文化センターについては、引き続きアンケート等を通じて利用者ニーズの把握に努めながら、サービスの向上と経費の節減に努めるよう指導していく。</p> <p>なお、水族館の修繕工事については、緊急性、危険性の高いものから優先して行うことを基本に計画的に実施するとともに、修繕工事に要する費用についても計画的に積み立てるよう指導していく。</p>
--------------------	--

< 財団法人 いばらき文化振興財団 から県民のみなさまへ >

いばらき文化振興財団は、各種の文化振興事業を行うことにより、個性豊かな県民文化の振興を図り、国際性豊かな文化の県づくりに寄与することを目的に平成4年に設立されました。

文化芸術に接する機会の提供として良質な舞台芸術公演を行うほか、文化活動団体等への支援及び県民の文化活動の拠点施設としての「県民文化センター」の管理運営、茨城の海と自然・世界の海と地球環境を基本テーマとした「アクアワールド・大洗」の運営を行い、県民の皆様から親しまれる魅力ある施設をめざして運営にあたっております。

県民文化センターにつきましては、平成18年度から指定管理者の指定を受け、事業面では、歌舞伎・クラシック音楽・オペラ公演など様々な舞台芸術を提供するとともに、落語塾・ミュージカルのワークショップなど参加型事業を行い、文化の担い手の育成に努めております。施設運営面では、より快適な施設の提供とサービスの向上を図るため、貸館の予約受付及びチケット販売窓口の延長営業を行うほか、大ホールの客席椅子の全面改修や音響設備の改修、トイレの増設などの整備を行いました。

アクアワールド・大洗につきましては、「見て、触れて、遊びながら楽しく学べる」展示の充実に努めており、平成19年10月には、お陰様で平成14年3月の開館以来5年7ヶ月で700万人のお客様にご入場いただきました。

今後とも、県民文化センターとアクアワールド・大洗がお客様に快くご利用いただけますよう、魅力ある事業の展開と、施設の安全管理に努めてまいります所存でございます。職員一同、皆様のお越しを心からお待ちしております。

平成20年2月 理事長 橋本 昌